





2050年カーボンニュートラルに向けて



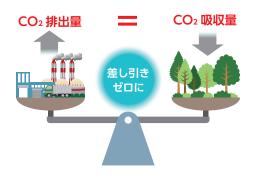




## 「カーボンニュートラル」とは?

最近いろいろなところで目にする「カーボンニュートラル」。 地球温暖化をもたらす**「温室効果ガス」の排出をできるだけ 削減し、**削減できなかった分は植林による吸収などで差し引いて**全体としてゼロにする**ことです。

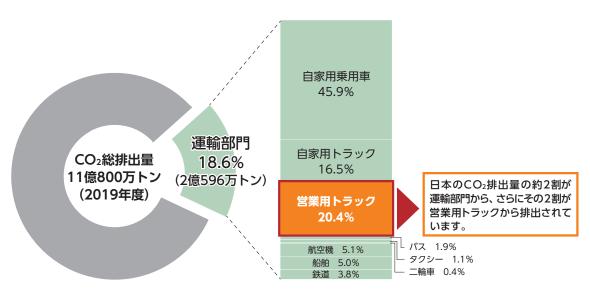
日本政府は**2050年**に「カーボンニュートラル」を目指すことを宣言し、また**2030年度**の温室効果ガスの排出削減目標を国際社会に向けて表明しており、地球温暖化対策に**社会全体で関わる**ことが求められています。



## トラック運送業界のCO2排出量

温室効果ガスのうちもっとも多く排出される**CO2(二酸化炭素)**は、現代社会の**あらゆる場面で排出**され、トラックをつくるとき、荷物を積んで走るとき、廃車するときにも、それぞれCO2が排出されています。

#### 営業用トラックのCO2排出量(2019年度)



国立環境研究所 温室効果ガスインベントリオフィス (GIO) のデータをもとに全ト協作成

#### トラック運送業界が取り組む「カーボンニュートラル」

荷物を運送することで成り立つわたしたちトラック運送業界は、トラックの運行を止めることはできませんが、各社のさまざまな工夫と努力によってCO2排出量を減らすことができます。

全日本トラック協会は、無理せずできそうなことから取り組みを始め、**2030年度**を目標にトラック運送業界全体で「カーボンニュートラル」を目指すため、『**トラック運送業界の環境ビジョン2030**』を策定しました。

## 『トラック運送業界の環境ビジョン2030』で取り組むこと

2050年の「カーボンニュートラル」を目指して、トラック運送業界が2030年に「こうありたい」という姿を示すために、『ビジョン』という言葉をタイトルに入れました。

2030年、さらにはその先を見据えて、「こうありたい」姿を実現するための道しるべです。

#### 具体的に何をすればよいのでしょうか?

『トラック運送業界の環境ビジョン2030』では、取り組みやすいものを選んで実践できるように、3段階のメニューに分けて、それぞれ具体的な行動例を示しています。

3 段階のうち**△の取り組み**に重点を置きつつ、**Bの取り組み、○の取り組み**についても積極的に実践することで、トラック運送業界全体の環境対策につながります。



# 3段階の行動メニューから選んで取り組みを始めましょう

3段階の行動メニューは、都道府県トラック協会など**業界団体の取り組み**と、**事業者の取り組み**に 分けられています。それぞれの立場でできることを考えてみましょう。

つぎに**「これならできそう」**という行動メニューを選んで、まずは取り組んでみましょう。

#### SDGsの目標達成に貢献できます

3 段階の行動メニューを実践することが、**SDGs (持続可能な開発目標) の目標達成に貢献**することにもつながっています。

『トラック運送業界の環境ビジョン2030』で提案する行動メニューが、どのSDGsの目標につながるか、意識して取り組んでみましょう。企業の経営計画の中で、SDGsの目標との関連づけをすることもできます。

#### **A** 運送事業を推進するうえで取り組む地球温暖化対策メニュー

	エナトテンフ					
	行動メニュー	業界団体の取り組み	事業者の取り組み	貢献できる SDGsゴールの例		
1	環境性能に優れた 次世代トラックの 導入	<ul><li>次世代トラックに係る情報提供</li><li>次世代トラックの導入に係る支援</li><li>メーカー・国に対する次世代トラック開発と導入支援の働きかけ</li></ul>	●環境性能に優れた次世代トラック の導入	3 1000000 7 10000000 9 820000000  11 10000000 12 000000 13 10000000  A 11 00000000 10 000000 13 1000000000000		
2	エコドライブの 推進	<ul><li>●エコドライブ推進マニュアル等の整備</li><li>●エコドライブに係る講習会等の開催</li><li>●エコタイヤの導入に係る支援</li></ul>	<ul><li>「エコドライブ10のすすめ」の実施</li><li>■エコドライブに関する社内教育・ 講習会等への参加</li><li>「エコドライブ実施中」ステッカー の貼付</li><li>■エコタイヤの導入</li></ul>	7 1345-14455 11 856500 11 856500 A B B B B B B B B B B B B B B B B B B		
3	アイドリング・ ストップの推進	<ul><li>●アイドリング・ストップ 支援機器に係る情報提供</li><li>●アイドリング・ストップ 支援機器の導入に係る 支援</li></ul>	<ul><li>●アイドリング・ストップの実施</li><li>●アイドリング・ストップ支援機器の導入</li><li>●「アイドリング・ストップ宣言」ステッカーの貼付</li></ul>	3 m 100 17 m 13 m 100 m 1 13 m 100 m 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		
4	EMS (エコドライ ブ管理システム) 関連機器の導入	●EMS関連機器に係る情報提供 ●EMS関連機器の導入に 係る支援	●EMS関連機器の導入と運行管理	7 ::::::::: 9 :::::::::::::::::::::::::		
5	輸送効率化の 推進	<ul><li>輸送効率化に係る情報 提供</li><li>求荷求車情報ネットワーク「WebKIT」の周知</li></ul>	<ul><li>●保有車両の大型化・トレーラ化</li><li>●共同輸配送の実施</li><li>●求荷求車情報ネットワーク「Web KIT」の活用による実車率および積載効率の向上</li></ul>	7 ::::::::::::::::::::::::::::::::::::		
6	整備点検の徹底	●適正な点検整備による CO2削減効果の周知	●タイヤ空気圧など整備点検の徹底	7 1104-1404C 12 205R 13 188R 13 188R 13 188R 10 205R		

## **B** 運送事業以外で取り組む地球温暖化対策メニュー

行動メニュー		業界団体の取り組み	事業者の取り組み	貢献できる SDGsゴールの例
1	事業所などでの節電	<ul><li>事業所・車庫・倉庫等の 節電に係る情報提供</li><li>事業所・車庫・倉庫等の 節電に係る支援</li></ul>	●事業所・車庫・倉庫等でのこまめな 節電 ●施設の照明のLED化、省エネ化 ●省エネ型事務機器等の使用 ●適正温度での冷暖房、断熱フィルム等の使用・フィルターの掃除 ●クールビス・ウォームビズの実施	7 ::::
2	移動に係る エネルギーの削減	●通勤・出張等、配送や営業活動以外の移動のエネルギーに係る情報提供 ●通勤手段の変更・テレワーク・WEB会議等に係る支援	<ul><li>●自家用車から公共交通・自転車等への通勤手段の変更</li><li>事務職のテレワーク・交代勤務等の実施</li><li>●WEB会議の活用による出張回数の低減</li></ul>	3
3	グリーン調達の 推進	●グリーン調達に係る情報 提供	●事業所内の備品等について、エコマーク商品等のグリーン商品の購入 ●[ISO14001] [エコアクション21]等の認証取得企業からの優先的な購入 ●紙の使用量の削減	12 30000 13 100000 14 100000 15 1000000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 1000000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 1000000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 100000 15 10000000 15 1000000 15 1000000 15 1000000 15 1000000 15 1000000 15 1000000 15 1000000 15 1000000 15 1000000 15 1000000 15 1000000 15 1000000 15 1000000 15 1000000 15 1000000 15 1000000 15 1000000 15 1000000 15 10000000 15 10000000 15 10000000 15 10000000 15 10000000 15 10000000 15 10000000 15 10000000 15 100000000
4	植林事業の推進	●トラックの森事業の推進 ●植林事業に係る支援	●植林事業の実施・社有林等の活用	11 #248104   13 #2482   15 #2524

## ☑ 運送事業を推進するうえで取り組む △ 以外の環境対策メニュー

行動メニュー		業界団体の取り組み	事業者の取り組み	貢献できる SDGsゴールの例		
1	廃棄物の削減	<ul><li>●廃棄物の削減と適正な廃棄物処理に係る情報提供</li></ul>	<ul> <li>事業所ゴミ・プラスチックゴミの削減</li> <li>ゴミ分別の徹底</li> <li>ゴミのポイ捨て禁止運動・清掃活動の実施</li> <li>フロン類の適正管理</li> <li>廃棄物・廃油等の適正処理</li> </ul>	11 00000000 12 000000 13 00000000 14 00000000 15 0000000 14 00000000 15 0000000 15 0000000 15 0000000 15 0000000 15 0000000 15 0000000 15 0000000 15 0000000 15 0000000 15 00000000		
2	資源リサイクル の推進	●資源リサイクルに係る情 報提供	<ul><li>輸送梱包資材の繰り返し利用の推進</li><li>再生タイヤ・再生パレット等の導入</li><li>廃タイヤ等のリサイクル</li><li>不要物のリユース</li></ul>	11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		
3	騒音対策	●騒音対策に係る情報提供 ●トラックステーション等 の仮眠・休憩施設の整備	●騒音の少ない運転の徹底 ●静粛性能の高いタイヤの使用 ●コンビニ・路上等での仮眠・休憩の 抑止 (トラックステーション等休憩施 設の利用)	3 \$500000 7 1000-00000 11 000-00000 1000 100		
4	環境教育の推進	●環境教育に係る情報提供	<ul><li>●従業員への環境教育の実施</li><li>●地域やこどもへの環境出前授業の実施</li></ul>	4 ****** 7 ****************************		
5	社会貢献の 取組み推進	●SDGs等、環境の観点からの社会貢献に係る情報 提供	● SDGsを意識した事業活動の推進 ● グリーン経営認証・ISO14001 等の認証取得	8 :::: 13 :::::::  17 :::::::::::::::::::::::::::		

## 『トラック運送業界の環境ビジョン2030』で目指すこと

#### メイン目標

# 2030年のCO2排出原単位を、2005年度比で31%削減する

トラック運送業界をあげて「カーボンニュートラル」をめざすためには、まず「目標」が必要です。

一般に、輸送量が増加すると燃料使用量( $=CO_2$ 排出量)も増加しますが、輸送量は景気など経済情勢に大きく左右されるため、トラック運送業界がコントロールすることはできません。

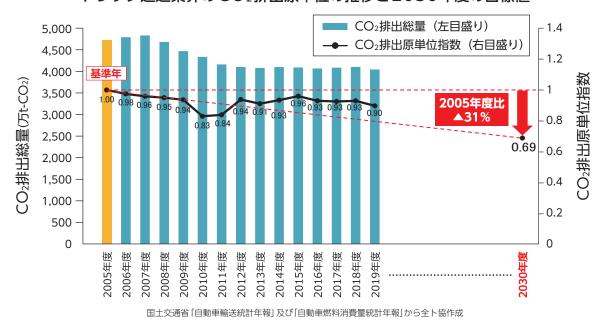
一方で、輸送量(輸送トンキロ)あたりの燃料使用量、すなわちCO<sub>2</sub>排出原単位は、エコドライブや輸送の効率化など、トラック運送業界が努力した結果が反映されます。

全日本トラック協会が参画している、日本経済団体連合会の「カーボンニュートラル行動計画」\*では、輸送量(輸送トンキロ)あたりの燃料使用量、すなわちCO2排出原単位の削減を業界の目標とすることが適切と考え、トラック運送業界全体の2030年のCO2排出原単位を2005年度比で31%削減することを目標としています。

トラック運送業界としての目標の統一性を図るため、『**トラック運送業界の環境ビジョン2030**』でも、この目標を「メイン目標」として定めます。

※日本経済団体連合会が2012年度までの削減目標をめざして1997年に策定した「環境自主行動計画」、さらには、2030年度までを目指して2013年度に策定した「カーボンニュートラル行動計画」に全日本トラック協会も参画し、自主的な行動計画のもとに取り組みを進めています。

#### トラック運送業界のCO2排出原単位の推移と2030年度の目標値



#### メイン目標の参考値としてCO2排出総量にも注目する

メイン目標ではCO<sub>2</sub>の「排出原単位」を指標としますが、参考値として「排出量」そのものについても注目し、CO<sub>2</sub>排出総量での目標を設定している国内外の削減計画に対するトラック運送業界の寄与の度合いも、あわせて検証していきます。

#### 3つの《サブ目標》達成に向けて取り組む

トラック運送業界のカーボンニュートラルのためには、業界全体で取り組むという意識のもと、ト ラック運送事業者、全日本トラック協会、都道府県トラック協会の三者が、**具体的な目標に向けて行** 動することが効果的です。

『**トラック運送業界の環境ビジョン2030**』では、トラック運送業界全体で取り組めるように、「メ イン目標 | のもとに**3つの 《サブ目標》**を設定します。



#### 車両総重量8t以下の車両について、 2030年における雷動車の保有台数を10%とする

- ●政府の「グリーン成長戦略」における商用車の目標\*を満たすためのト ラック運送業界全体の目標として、全日本トラック協会が都道府県別の ハイブリッドトラックや電気トラックなどの保有台数を毎年把握、公表 します。
- ※「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」(令和3年6月)において「商 用車における目標」として、「車両総重量8 t 以下の小型の車について、2030年までに新 車販売で電動車20~30% を目指すことを掲げています。





#### 各事業者が自社の車両のCO2排出総量または CO2排出原単位を把握することを目指す

- ●全日本トラック協会が提供するCO<sub>2</sub>排出量計算ツール\*を使用し、各社 で算出して自社の現状を把握することを目指します。
- ●さらにCO2削減のための目標を設定し、実際の行動に結びつけます。
- ※全日本トラック協会のホームページに「トラック運送事業者用CO。排出量簡易算定ツール」 と、その「使い方マニュアル」を掲載します。







■国などが定めた月間設定に歩調をあわせて、全国のトラック協会でイベ ントや広報活動を行います。



- 緑化、省エネ、ゴミ減量、SDGsなど環境保全に 環境月間 6月 係ることすべてが対象 エコドライブ アイドリングストップなどエコドライブにつなが 11月 る活動が対象 推進月間
- ・各地の状況にあわせ、別の月に設定して活動することも可能です。
- ・1年間の各都道府県の実施内容をまとめ、全ト協のホームページで「ト ラック運送業界での環境の取り組み として公表します。

# 『トラック運送業界の環境ビジョン 2030』の実施体制

●トラック業界全体で取り組む計画である『トラック運送業界の環境ビジョン2030』は、すべてのトラック運送事業者と、全日本トラック協会・都道府県トラック協会が、ともに具体的な目標に向けて行動をします。



●取り組みにあたっては、PDCA(Plan-Do-Check-Act)サイクルを継続的に 回し、ステップアップを目指します。





将来にわたって地球環境を守るため、トラック運送業界は カーボンニュートラルをめざして取り組みます。



〒160-0004 東京都新宿区四谷三丁目2番地5 全日本トラック総合会館 TEL.03(3354)1009 代 ホームページ https://jta.or.jp



